

平成26年度研究成果中間報告書《平成26年度指定教育課程研究指定校事業》

都道府県・ 指定都市番号	24	都道府県・ 指定都市名	三重県	研究課題番号・校種名	2 高等学校
				教科名	福祉
研究課題	新学習指導要領の趣旨等を実現するための教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
ふりがな 学校名（生徒数）	みえけんりつい がはくほうこうとうがっこう 三重県立伊賀白鳳高等学校（820名）				
所在地（電話番号）	0595-21-2110（代表） 0595-21-7963（科）				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.igahakuho.ed.jp/				
研究のキーワード	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会福祉基礎」における指導方法及び評価方法 ・ICT 活用 ・言語活動の充実 ・地域連携 				
研究成果のポイント	<p>「社会福祉基礎」の授業の充実を目的とし、ICT 機器を活用しビジュアル的でアクティブな授業を展開した。その結果、「わかりやすかった」「どちらかと言えばわかりやすかった」と答えた生徒が8割以上であった。</p> <p>積極的にグループワークを取り入れるなど、言語活動の充実を図り、コミュニケーション能力の育成に努めた。</p> <p>また、地域団体・人材を講師として招いて行った授業や住民とともに学ぶ授業も実施した。「社会福祉基礎」の学習の実現状況を把握するため目標及び評価を見直した。</p>				

1 研究主題等

(1) 研究主題

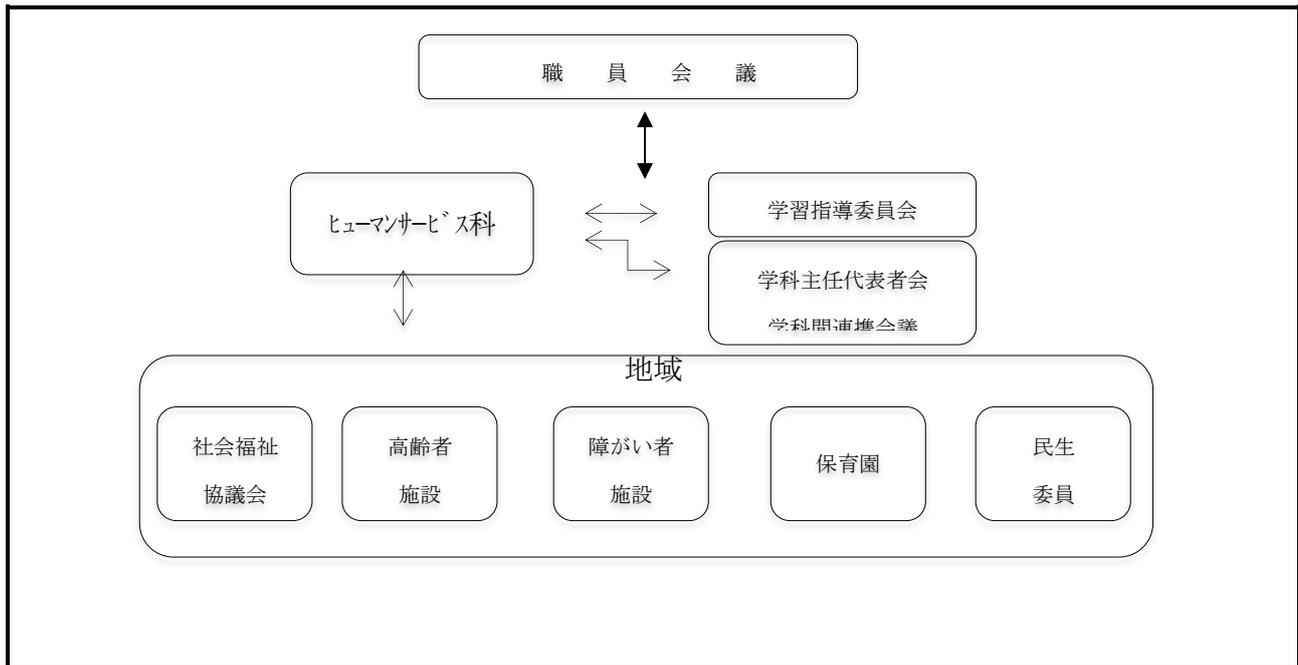
地域の福祉を担う人材として必要な福祉観の醸成を図るための教育内容及び指導方法の工夫改善

(2) 研究主題設定の理由

本校が立地する伊賀市は福祉ニーズが高く、特別養護老人ホームが11カ所、介護老人保健施設が4カ所、保育園が36カ所あるため、福祉人材の育成の必要性が高い地域である。本校ヒューマンサービス科は、このような状況を鑑み介護を深く学ぶ介護福祉コースと保育を含めた幅広い福祉を学ぶ生活福祉コースの2つのコースを設置している。本校の介護福祉コースの生徒の福祉観は、高齢者介護が中心になりがちで、今以上に、幅広い社会福祉を捉える視野を持って欲しいと考えている。一方、生活福祉コースの生徒は、福祉全般を学ぶ中で、幅広い福祉観が育成されているが、生徒個々の福祉観の確立を、一層深いものになりたいと考える。

このことから、地域の福祉を担う人材として必要な幅広い福祉観、自分なりの福祉に対する考え方、自分の生きる道などを含めた福祉観の醸成を図るための教育内容及び教育方法の工夫改善を研究目的とする。

(3) 研究体制



(4) 1年間の主な取組

平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月 ICT機器の導入・ICT活用方法研究 ・ 5月 社会福祉基礎 指導案検討 ・ 6月 社会福祉基礎 授業検討 ・ 7月 意見交換会（福祉教育研究フォーラム） ・ 9月 地域連携 地域開放講座の実施（計7回） ・ 10月 静岡県立磐田北高等学校 授業研究・研究協議 公開授業 指導案検討（ICT活用 言語活動の充実） ・ 11月 埼玉県立誠和福祉高校（授業研究・研究協議） ・ 12月 公開授業 指導案検討（ICT活用 言語活動の充実） 授業検討（グループワーク 言語活動の充実） ・ 1月 和歌山県立有田中央高等学校 授業研究・研究協議 ・ 2月 教育課程研究センター関係指定事業研究協議会 教育課程研究県内報告会及び教科調査官指導助言訪問
--------	---

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

地域の福祉を担う人材として必要な福祉観の醸成を図るための教育内容及び指導方法の工夫改善

・「社会福祉基礎」及び「介護福祉基礎」における教育内容・指導方法の研究

- ①ICT機器活用方法の研究
- ②地域との連携授業の研究
- ③思考力・判断力・表現力を育成するための工夫・改善とその評価方法の研究
- ④新学習指導要領に基づく各科目の目標等への実現状況を把握する研究

(2) 具体的な研究活動

「社会福祉基礎」及び「介護福祉基礎」における教育内容・指導方法の研究

①ICT 機器活用方法の研究

- ・ 書画カメラ・PC 及びタブレット端末の活用
- ・ 電子黒板の活用

②地域との連携授業の研究

- ・ 地域団体・人材を講師としての授業の実施
- ・ 地域住民向け、または、住民とともに学ぶ授業の実施

③思考力・判断力・表現力を育成するための工夫・改善とその評価方法の研究

- ・ グループワークを通じたコミュニケーション能力の育成を図る授業の実施
- ・ プレゼンテーション能力の育成を図るための言語活動を充実させた授業の実施

④新学習指導要領に基づく各科目の目標等への実現状況を把握する研究

- ・ 観点別評価項目の研究

3 研究の成果と課題

(1) 成果

「社会福祉基礎」の授業の充実を目的とし、ICT 機器活用やグループワークを通してコミュニケーション能力の育成を図るため、言語活動の充実を図った。

ICT 機器の活用では、電子黒板、タブレット端末、PC を積極的に利用しビジュアル的でアクティブな授業を展開した。その結果、「わかりやすかった」「どちらかと言えばわかりやすかった」と答えた生徒が 8 割以上であった。

言語活動の充実では、授業の中に積極的にグループワークを取り入れ、またグループごとに発表させることとした。授業研究での意見として、「個人・グループ・全体と段階をおって生徒の意見が交流できる場が良い。」「導入にグループワークを取り入れると、生徒の興味を引きやすい。」「適度な ICT 機器の取入れが、手軽ながらわかりやすい発表になっている。」などという意見が出されるなど、高い評価を受けた。

また、地域団体・人材を講師として招いて行った授業や住民とともに学ぶ授業も実施した。生徒からは、「私達とは違った視点からの意見がきけた」「福祉を地域で考えなくてはいけないことを知った」などという意見がでた。地域の方々からは、「若い子たちのしっかりした考えにおどろいた」「これからの地域をささえてくれるんだなと少し安心した」などという声も聞かれ世代間の学びに一定の成果も見られ、生徒の福祉観の醸成にも効果があった。

これらの「社会福祉基礎」の授業を展開する中で、学習の実現状況を把握するためにも今年度は、目標及び評価を見直す研究も行った。今年度は、社会福祉基礎の「社会福祉の理念と意義」についての目標・評価について再検討をおこなった。これについては、指定校 4 校で互いに見直しを実施し、「単元の目標」「単元の評価基準」「指導と評価の計画」を設定した。



(2) 課題

ICT 機器活用方法の研究における課題としては、書画カメラ・PC 及びタブレット端末・電子黒板といった機器を活用することに振り回されないよう、どのように進めていくか検討が必要である。また、教材研究にかかる時間が、生徒の学習効果とみあっているかを見極めなくてはならない。また、機器の活用方法などの研修等も実施し、教員の ICT 機器の活用技術を高める必要がある。

地域との連携授業の研究においては、地域団体・人材を講師として招いて行った授業では、講師によって授業力の差があるため、適切な評価が困難であることがあげられた。今後は事前の打ち合わせを充実させる必要がある。住民の方々とともに学ぶ授業では、ともに学ぶ住民の方々の雰囲気左右されることが多い。授業参加オリエンテーションの時間を設けるなど、生徒のみならず住民の方々に授業の目標を事前に理解し、授業に参加してもらえるよう進める必要がある。

グループワークを通じたコミュニケーション能力の育成を図る授業やプレゼンテーション能力の育成を図るための言語活動を充実させた授業に取り組んだ授業研究では右枠内の意見がだされた。単元内でのグループワークの回数やどの項目でグループワークを取り入れるかなどの授業計画を見直す必要性がでてきた。

社会福祉基礎の目標や評価方法の検討では、学習の達成度を測ることができなかった。授業の取組の効果を測るためにも必要だと感じている。

思考力・判断力・表現力を育成するための工夫・改善公開授業における課題

1. 「単元内のどのタイミングでグループワークをおこなうのが良いのか検討が必要である」
2. 「グループワークの意見をまとめると、板書がとりにくくなるのではないかな」
3. 「その項目に対する授業時間が多くなりすぎないかな」

(3) 研究2年目へ向けての取組

次年度は、「ICT 機器活用」「グループワークを通してコミュニケーション能力の育成を図るための言語活動の充実」を一層取り組んでいきたい。「ICT 機器の活用」では、ビジュアル的でアクティヴな授業をすすめることにより「知識・理解」の学習状況がより充実したものになるよう進めていく。「言語活動の充実」では、グループワークの取入れや、グループごとに発表させることなどをさらに発展させ、「思考・判断・表現」の能力を育てたい。さらには、様々な資料を活用できる「技能」の能力なども育てていきたい。これらの取組が、「関心・意欲・態度」の向上につながればと考える。次年度はこれらの目標にあった観点別学習評価をどのように行うか検討をすすめ、授業の展開を検討したい。またそれに伴い、社会福祉基礎の評価基準の作成を計画している。「社会福祉の理念と意義」と「人間関係とコミュニケーション」の二つの単元について重点的に研究し、学習状況の達成度を測りたい。評価方法について、観察・生徒との対話・ノート・ワークシート・レポート・テストなどの様々な評価方法の中から、その単元・項目における生徒の学習状況を的確に評価できる方法を検討し、指導案、ワークシート例等を作成する予定である。